

潮来祇園祭禮

見所案内
日程

3 初日 日金

初日の潮来祇園祭禮は、素鷲熊野社からの二体の御神輿を迎えるお浜下りから始まり、その後は各丁内「乱曳き」での運行となります。夜の部では、潮来駅周辺にて各丁による踊りや曲曳きが披露されます。

9:30~10:00 お浜下り
10:30~22:00 各丁内山車乱曳き
17:30~20:30 潮来駅周辺曲曳き



見所

潮来駅前踊り合戦



見所

お浜下り MAP ①



見所

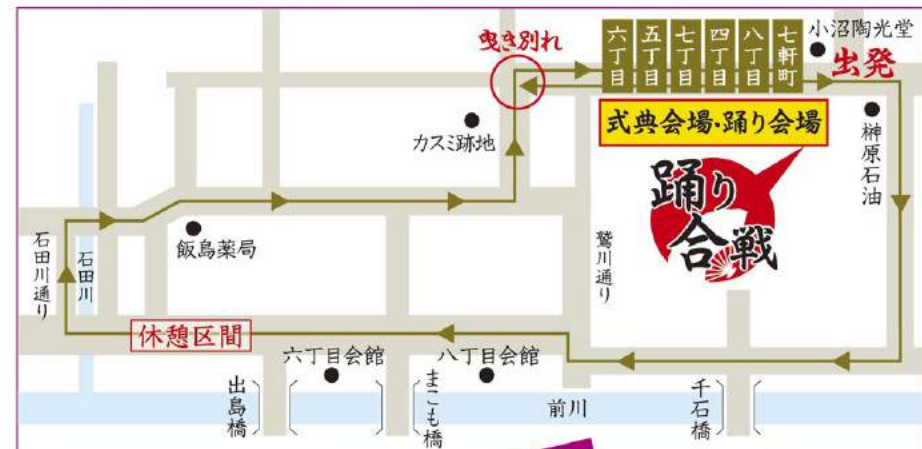
十番渡御

五年に一度行われる行事。天王川岸より、(10時30分頃出発)御座船に二体の御神輿(素鷲社と熊野社)を乗せ、船団を組み、十番御分社へ向う水上渡御です。水郷情緒あふれる水上渡御がみられる!

潮来駅前
西濱六 合同番組 18:05~18:40
上四七 合同番組 18:40~19:20
八の字廻し 19:20~19:30
大下貳五 合同番組 19:30~20:30
※時間や内容は変更する場合がございます。ご了承ください。

4 中日 日土

中日の日中は、主に「乱曳き」となります。夕方からは西地区では「七丁連合」が、東地区で「東部合同曳き」が行われます。



東部 合同曳き
17:10~21:00
17:10~ 合同曳き開始
20:00~ 踊り合戦
20:30~ 引継ぎ式典 21:00~ 曳き別れ



5 最終日 日

最終日は、各丁内での丁内廻りを中心とした「乱曳き」となります。各所に、の字廻し・そらばん曳きなどの曲曳きが行われます。また、御仮殿より素鷲熊野社へ二体の御神輿が遷御する「お山上り」も行われます。

9:00頃~22:00頃 各丁内山車乱曳き
16:00頃~17:00頃 お山上り

潮来祇園祭禮とは

潮来祇園祭禮は、旧潮来町の北に位置する天王山に鎮座する素鷲熊野社の例大祭で、初めて潮来で例大祭が行われた文治四年以来八百有余年の歴史と伝統があり、毎年八月上旬(三日間)に行われます。

この祭りは、初日に素鷲社(天王様)と熊野社(権現様)の二体の御神輿が御座船(お浜下り)として、御仮殿への遷座で始まり、中日の本祭には渡御(丁内御神幸)、最終日には遷御(お山上り)がそれぞれ行われます。

祭りに花を添えるのが、三丁目の獅子舞及び、総数十四台の奉納山車(現在、三台が県指定有形民俗文化財、三組の山車が市指定有形民俗文化財)そして、この山車に乗った芸連によって奏でられる「潮来ばやし」(県指定無形民俗文化財)です。

この山車は、大人形に代表される飾り物や彫刻、玉簾、額など江戸・明治の匠の技を今に伝えるもので、各丁内の財産として大切に管理されています。

芸連を含めると総重量約四トンにもなる山車が丁内の若衆によって曳き廻される様は勇壮で、寸々山車の向きを変える時や坂道を登るときは、若衆の粋と意地の見せ所となります。

圧巻は「の字廻し」や「そらばん曳き」に代表される「曲曳き」と呼ばれる曳き廻しで、若衆と山車と芸連連が一体となった様は必見です。

案内地図



山車の現在地が瞬時にわかる
運行GPSへのアクセスはこちら!

https://doconeel.com/itako/
各町内ごとの運行表はこちら
http://www.omatari.jp/!

潮来祇園祭禮における大幟旗

幟は、その祭りの場であることを知らせる目的であるが、それは人に知らせるのではなく、神様をお迎えする為の目的として立てられています。

現在十四丁内中、八丁が幟を立てています。地図を参考に、大幟旗を探して見てください。

- 西査丁目 鎮守御祭禮
- 濱査丁目 祇園御祭禮
- 上査丁目 鎮守御祭禮
- 下査丁目 氷民家徳澤 萬古仰威堂
- 武丁目 祇園神會
- 三丁目 蓮豆有踐 桑榎方華
- 四丁目 祇園神會
- 御仮殿 祇園神會
- 五丁目 素鷲社併齋
- 六丁目 壽考維祺 享祀不武 萬延元年
- 七丁目 威驅龍蛇
- 八丁目 徳護遺齋
- 七軒町 (国旗)
- 十番 鎮守御祭禮

ご存知ですか? 潮来節

潮来節は、香取・鹿島参詣で賑わった常陸國の水郷潮来を起点とし、江戸の遊里で流行をみせ、その後全国的に伝播した流行歌謡でした。基本は男女の情愛を歌うものです。

「七七五」の26文字でひたひたの歌謡となり、現在千手曲余りが記録されています。

原曲
いたこ出島の 七(三・四)
真菰の中に 七(四・三)
あやめ咲くとは 七(三・四)
しほらしや 五

祭り用語解説

◆ そらばん曳き
山車を、往きは「馬鹿」(砂切(さんぎり)ばやし)で全速力で走る時、夜山車が到着した時のみに演奏される儀式的な曲です。また山車が整列した時に「番に(砂切)が演奏されることを「通し砂切」と言います。演奏する雅子連によつて違いがあるので、聴き比べてみて下さい。

◆ 山車乱曳き
各丁内の山車が、各々のコースを曳き廻すことを「乱曳き」と言います。

◆ の字廻し
重さ300kgにも及ぶ山車を山車に向って左前車輪を軸にして、ひらがなの「の」の字を書くように、山車を数回(奇数の3回または5回)回転させる曲曳きで、ゆっくり回転させることが美しいの字廻しとされています。勇壮・迫力あるの字廻しは圧巻です。

曲曳き

山車曳きの見せ場としての特別な曳き廻しのことを指し「の字廻し」「そらばん曳き」など全部で8種類あります。